URP Osaka City University
Newsletter
Issue 26, Feb. 2015
大阪市立大学 都市研究プラザ ニューズレター第 26 号 2015 年 2 月

第１回大阪台北都市研究フォーラム 兼 都市研究プラザ先端的都市研究拠点・特別研究員（若手）年次合評会

The First Combined Osaka-Taipei Urban Research Forum and Annual Evaluation Conference for Young Special Researchers of the Urban Research Plaza

2014 年 10 月 1 日（水）に第 1 回大阪台北都市研究フォーラム兼合評会が開催され、別表のとおり 12 名の発表により提示された都市再生・居住環境・福祉・文化・芸術など多様な観点から現代社会の課題について議論が行われた。最後に、セッションごとの発表内容についてフロアを交えた討議を行った後、水内俊雄（都市研究プラザ副所長/教授）と全泓奎（都市研究プラザ企画室長/教授）からコメントがあり閉会した。

2 日目の 10 月 2 日（木）には水内俊雄および全泓奎を先頭に、地元住民の方や現場の実践者、台湾大学教員と大学院生および都市研究プラザ（URP）特別研究員総勢約 30 名で、兵庫県営明舞北鉄筋住宅における団地の住戸を活用した地域活動拠点の現地視察を行った。視察中、兵庫県の明舞団地再生担当である谷川順彦氏から団地の概要説明・案内などをしていただいた。その後、明舞団地 E.E.いいまちづくりの会の事務室をお借りして、現地視察で感じたことについて活発な討論を行った。明舞団地の団地再生の現状と課題への理解を深め、また 1 日目に行われた研究発表事例で残されていた課題を踏まえながら、今後の大阪市および台北の都市再生に関わる課題について率直な意見交換が行われた。

今回のフォーラム兼合評会および現地視察において、様々な形で社会への知的還元が行われていることが確認された。URP は今後も社会問題の現場に積極的にアプローチしていくことで地域密着型の社会貢献を行い、地域が抱える課題の緩和・解決に寄与していく所存である。

■兪（ユ） 秀娟（シュウケン）（URP 特別研究員（若手））

From 1/10/2014 to 2/10/2014, the First Annual Combined Osaka-Taipei Urban Research Forum and Evaluation Conference of URP Young Special Researchers was held at the Takahara Memorial Hall of Osaka City University. The intent of the meeting was to focus on current social issues from various perspectives such as Urban Regeneration, Housing Environment, Social Welfare, and Culture and Art. In total, 12 presentations were given followed by active discussions in each of the sections.

On the second day, over 30 participants made a visit to Hyogo Prefecture's Meimai Kita Tetsusuji Housing Estate, which is regarded as an important community activities base, as well as an important site for academic discussion. It was highly evaluated as one practical way to approach urban housing issues.

写真中央は発表している黄麗玲氏

開催挨拶：阿部昌樹（都市研究プラザ(URP)所長）

Section1 (10:10～12:00)

黄麗玲（台湾大学建築與城鄉研究所 副教授）
「都市更新から都市再生へ：南機場忠慶里の事例」
黄鈺琦（台湾大学 大学院生）
「都市更新から都市再生へ
：艋舺地区の弱勢群体へのエンパワメント行動」
斉藤紘子（URP 特別研究員）
「近世和泉池上村の村落構造と救済」

Section2 (13:00～14:20)

司会：川井田祥子（URP 特任講師）
Yu Eun Young（台湾大学 大学院生）
「都市現住民女性の居住環境：溪洲部落の事例」
兪秀娟（URP 特別研究員（若手））
「ケアマネジメント業務における介護支援専門員の主観的時間認識とそれに関連する要因」
湯山篤（ソウル大学校社会科学大学社会福祉学科博士課程・URP 特別研究員（若手））
「ケアの質の指標に関する国際比較：介護サービスを中心に」

Section3 (14:30～16:50)

司会：櫻田和也（URP 特任講師）
林徳栄（URP 特別研究員（若手））
「韓国における野宿者概念の変容：1997 年の経済危機を中心に」
金素英（ソウル大学社会福祉学科博士課程・URP 特別研究員）
「貧困政策のローカルリズム：大阪市の生活保護の運用を中心に」
山田信博（URP 特別研究員）
「既存施設を活用した地域活動拠点」
中村光江（大阪市立大学大学院博士後期課程：URP 特別研究員）
「芸能の力；被災地岩手の廻り神楽をめぐる考察」
Daniel De Fazio（URP 特別研究員）
「White Shadows（白い影）：Kyoto's Hanamachi Bijin Manufacture & The Portrayal of Female Characters」
辻泰岳（URP 特別研究員）
「1960 年代における東京とニューヨークの往還：『空間から環境へ』展を題材として」

第 7 回 EARCAG 国際会議—住まう権利—

7th East Asian Regional Conference in Alternative Geography (EARCAG)
～The Right to Inhabit: The East-Asian Challenges～

7 月 23 日（水）から 25 日（金）にかけて、都市研究プラザ（URP）と大阪市立大学地理学教室が「7th East Asian Regional Conference in Alternative Geography (EARCAG)~The Right to Inhabit: The East-Asian Challenges」を開催した。今回は「住まう権利」をテーマにし、現在都市における社会的課題の集中的議論を行った。プログラムには、「居住・文化」「ゲオポリティクス」「社会的正義／公正」「ホームレス」「ツーリズム」という 5 つのセッションを設けた。東アジアだけではなく、欧米やインドから 50 名ほどの報告者が参加し、批判的なマインドをもった人々との有意義な学術交流ができた。

ポスト学会としては、テーマの延長で、7 月 25 日（金）から 28 日（月）にかけて東北エクスカーションに出て、仙台の仮住宅地、石巻の被災地と福島の原発地域を NPO のガイダンスの下で観察できた。肌で感じるツアーにもなり、参加者全員にとって記憶に残るイベントとして好評であった。

■ヒェラルド・コルナトウスキ（URP 特別研究員）

■「居住・文化」

「居住・文化」セッションは大会初日（23 日）、オルタナティヴな住居と批判的文化をテーマに、各々2 部にわたって開かれた。午前の部では Yoonae Han 氏と Ahyun Song 氏（両氏ともソウル大学・院）が宿泊仲介サービスの事例を日常空間のグローバル的包摂の観点から報告した。次に、Chang-heum Byeon 氏（韓国都市研究所所長）が韓国ソウルにおける共同所有住居の状況とその限界について報告した。次の報告は Hong-wei Hsiao 氏（国立台湾大学）と Hong-gyu Jeon（都市研究プラザ教授）により、台湾原住民集住地区におけるエスニック経済の創造性や社会的モビリティが述べられた。午後の部はまず Yen Fu Lai 氏（国立台湾大学・院）が台湾のゲイ・コミュニティにおける K-pop 実践の文化的ロジックについて報告し、次に Kosita Butratana 氏と Alexander Trupp 氏（両氏ともウィーン大学・院）が各々オーストリア都市部におけるタイ人女性の結婚移民と、タイ国内におけるエスニック・マイノリティ伝統工芸品露天販売業者の日常的実践とその限界について報告した。

■全ウンフィ（大阪市立大学文学研究科後期博士課程）

■「ゲオポリティクス」

「ゲオポリティクス」セッションでは 3 日間、5 セッションにおいて 16 名の発表者が多種多様なテーマについて報告した。初日の「中国、台湾、香港」と題した部では、香港と台湾海峡地域において経済的包摂の進展が各国でどんな政治的・経済的変貌を引き起こすかについて、Zhao Simon 氏（U. of Hong Kong）・Chu Ling-I 氏（国立台湾大学）・Hsu Szu-Yun 氏（U. of British Columbia）が報告した。

2 日目（24 日）の「国境と境界」という部では、小谷真千代氏（神戸大学）、水岡不二雄氏（一ツ橋大学）と Huang Tsung-yi 氏（国立台湾大学）が個人のスケールに焦点を当て、国境と境界とそれに伴う権力が個人の移動をどのように規制したり強制したりするかについて発表した。

次の「国家／ゾーニング」と題した部では、Park Bae-gyoon 氏（Seoul National U.）と Hsu Jinn-yuh 氏（国立台湾大学）が東アジアのグローバル化において経済特区の役割を分析し、Lee Sanghun 氏（Hanshin U.）が韓国の開発主義国家のリスク・マネジメントについて報告した。

「バイオポリティクス／環境」の部では、東南アジアにおいて農業と森林資源をめぐるポリティクスの歴史的展開が紹介された。Hung Po-Yi 氏（国立台湾大学）が台湾から北部タイへの茶の栽培の移転とその政治地理学的意義を発表し、Nakashima Koji 氏（金沢大学）と Eom Eunhui 氏（Seoul National U.）が東南アジアの森林資源の日本と韓国による開発について報告した。

「都市」をテーマにした最後の部では、Eom Sujin 氏（U. of California）が韓国の中華街開発を紹介し、そしてその経済的象徴的意義について報告した。

■モリシタ ニコラ（大阪市立大学文学研究科 研究生）

■「社会的正義／公正」

3 日目（25 日）に阿倍野メディクスで Social Justice and the City in East Asia と題したセッションが開かれた。このセッションは Wing Shing Tang 氏（香港浸会大学教授）と水内俊雄（URP 副所長）が共に企画し、12 名の発表者は最新の研究報告を行った。発表者は中国、香港、台湾、韓国、日本の東アジアの国々だけでなく、インド、シンガポール、オーストラリアも含めて 8 ヶ国から集まった。報告の共通点は、都市空間の生産・再生産にかかわり、政策や経済発展による社会的な弱者はそのプロセスからどのように排除されたかに分析の中心を置いたことである。その感覚から、参加者は香港、深圳、ソウルなどの都市を事例にし、土地所有、領域、市民権などのコンセプトを東アジアのコンテクストで再議論した。香港の深水埗地区における社会政策から排除された移民により構成された高密度や、深圳の都市化における領域を（再）生産する空間規制は、2 つの事例である。このような取り組みで、参加者は東アジアの都市コンテクストにおける社会的正義についての議論が深められた。

■ヨハネス・キーナー（URP特別研究員（若手）／文学研究科後期博士課程）

■「ホームレス」

このセッションでは、政策的枠組みや福祉の提供に関する様々な概念や実証的課題が議論された。まず、「ホームレス・ガバナンス」、「ポバティー・マネジメント」、「ハウジングファースト」、「新自由主義的な影の国家」（Geoffrey Deverteuil 氏［Cardiff U.］）という現在よく採用されているターム、そして「自立」や「自立支援センター」（水内俊雄［都市研究プラザ副所長/教授］）への主張は、政府の役割の後景化を意味していると言える。かわりに、ボランティア団体などによる「（コスト）効率の良い支援」がますます着目されている（ヒェラルド・コルナトウスキ）。二点目は、都市における少数の「支援ハブ」（Mathew Marr氏［Florida International U.］）に限られたホームレス支援、そしてこうした場所における「強制的なケア」（Deverteuil氏）であり、多くの場合は、支援制度の不備がホームレス当事者の反抗的な性格に原因しているとされる。三点目は「ホームレス」の定義範囲であり、日本と韓国では、「路上生活者」や「ラフスリーパー」という狭い定義でしかアプローチがされないという点が指摘された（Soo-hyun Kim氏［Sejong U.］）。四点目は、古い都市部における再生・再開発事業とホームレス支援資源へのアクセス問題との関連性が検証され、つまり、都市再生（住宅の建て替え）とコミュニティ・エンパワーメントの間にある矛盾が問題化している（Hong-wei Hsiao氏［国立台湾大学］）。最後に、福祉予算に関する問題や受給該当範囲の改善課題がかなり残っていることが指摘された（キム・ソヨン氏［大阪市立大学］）。中山徹氏と山田理絵子氏（大阪府立大学）による台湾と日本におけるホームレス政策の比較研究と、Li-Chen Cheng氏（国立台湾大学）による台湾の都市と地方におけるホームレスの比較研究は、一般ホームレス政策の具体的評価と提案として参考になる。

■クルムズ・メリチ（大阪大学人間科学研究科 後期博士課程）

■「ツーリズム」

「ツーリズム」セッションは、大会最終日（25 日）に行われた。日本の研究者を始め、海外からの研究者も参加し、日本の事例はもちろん他のアジアの事例も報告された。

まず、Koji Kanda 氏（和歌山大学）は、沖縄与論島の歓待の儀式である「与論献奉」に焦点をあてて、地域住民が観光客のためどのように伝統文化を変貌してきたのかについて報告した。Maya Takeda 氏（和歌山大学）は、和歌山県海南市のまちづくりに関わる住民と非住民とのパートナーシップ拡大に焦点をあてて調査した結果を報告した。Simon Wearene 氏（和歌山大学）は、クジラ捕獲に対し国際的に批判を受けている中、クジラ町として太地町が持つ伝統的知恵や技術を強調しながら有形・無形要素の回復に焦点をあてて報告した。Yumiko Horita 氏（和歌山大学）は、阪神淡路大震災後の住宅復旧プロセスについて説明しながら、これらの経験から得られた教訓は他の災害でどのように適用されてきたのかを事例を挙げながら報告した。Yurika Fujita 氏（和歌山大学）は、2011 年に起きた東日本大震災以降、観光地のイメージ回復を復旧マーケティングの焦点をあてて報告した。Kumi Kato 氏（和歌山大学）は、放射線で汚染された福島避難地区における伝統的な信念の復元について報告した。Richard Gonzalo 氏（University of the Philippines）は、フィリピンのボホールにおける災害後の地域社会とボランティアの役割について報告した。Miguela Mena 氏・Monina Buccat 氏・Vitoria Villegas 氏（いずれも University of the Philippines）は、災害後のボホールの観光開発の活性化について報告した。

■孫ミギョン（URP 特別研究員（若手））

会議の詳細なプログラムや発表のアブストラクトを掲載したものを URP レポート 31 号として発行しています。あわせてご覧ください。
http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/archives/report.html

参加者の記念写真

From 23/7 to 25/7, The URP and OCU Geography Department organized the biannually “7th East Asian Regional Conference in Alternative Geography (EARCAG): The Right to Inhabit: The East-Asian Challenges”. Five sessions were included into the program on "General Topics", "Geopolitics", "Social Justice", "Homelessness" and "Tourism". More than 50 presenters from Asia, Europe and America participated to discuss current social urban challenges from various spatial perspectives. After the conference, a three day excursion was organized to the disaster-affected Tohoku Region, in which more than 20 participants were able to experience the current housing problems and recovery projects.

■オープンナガヤ大阪 2014
Open *Nagaya* Osaka 2014

第 4 回オープンナガヤ大阪 2014 は 11 月 8 日（土）～9 日（日）に大阪市内 7 区 18 会場で開催され、参加者は 2 日間で延べ千名を超えたものと思われる。これは、大阪の市民や長屋関係者に対して長屋の魅力を知ってもらい、保全や活用の情報交流を行うという、一斉公開イベントである。実行委員会は各会場担当者によって構成され、事務局は市大生活科学研究科藤田研、小池研が中心となり担っている。当日は都市研究プラザ・豊崎プラザであるお屋敷と長屋群が最大の会場であるが、他の十数会場は市内に広がっており、スタッフ参加者は JR、地下鉄、私鉄でガイドマップ片手に移動する。各会場では「暮らしびらき」をテーマに、講演会、内覧会、改修相談会、壁塗りワークショップをはじめ、お茶席、まち歩き、防災マッピングなど多彩なイベントがそれぞれ企画された。一般のカフェ、店舗は通常営業の合間での公開である。

参加者は、建築・不動産関係者や住宅・建築を勉強している学生にとどまらず、長屋所有者や入居希望者など一般の市民も多数参加していたことがイベントのアンケート結果からわかっている。準備や広報、当日の運営に際しては、Facebook、Twitter、LINE 等のソーシャルメディアや公式ウェブサイト、さらには新聞、ラジオというマスメディア、ミニコミ紙など幅広いメディアを活用したが、市大本部によるプレスリリースの効果には絶大なものがあった。

今後は発展的に継続していくとともに、大阪を舞台とした他のオープンハウスイベントとのゆるやかな連携を図っていきたい。　■藤田忍（生活科学研究科教授）

豊崎プラザでのイベントの様子

The 4th annual Open *Nagaya* Osaka 2014 was held on November 8 and 9 at 18 different sites across 7 of the city's wards, and as many as a thousand people participated over the two days. This is a simultaneous open event aimed at having the citizens of Osaka and people related to *nagaya* understand the attractions of *nagaya* and to exchange information about their preservation and utilization. At each of the sites a wide array of events was planned around the theme of 'living expansively' such as lectures, interior tours, consultation meetings on renovation, and wall painting workshops, as well as tea services, neighborhood walks, and disaster prevention mapping, etc.

URP「先端的都市研究」ブックレットシリーズ 刊行間近

文部科学省の助成を受けて共同利用・共同研究拠点形成事業の一環として取り組んでいる先端的都市研究や、それをふまえた教育実践の成果を多くの人々に共有していただくためにブックレット第 1 号～第 5 号を 2015 年 3 月末に刊行する予定です（4 月以降も続刊予定）。詳細は都市研究プラザのホームページに掲載していきます。

第 1 号『市大都市研究の最前線～地域実践連携講座の試み』、第 2 号『居住福祉を切り拓く居住支援の実践』、第 3 号『メタセコイアと文化創造～植物的社会デザインへの招待』、第 4 号『都市大阪の磁場～変貌するまちの今を読み解く』、第 5 号『エスニックミュージアムによるコミュニティ再生への挑戦』

■国際シンポジウム in ソウル 開催予定

＊詳細は確定後、都市研究プラザホームページに掲載します。

会　期：2015 年 5 月 14 日（木）～5 月 16 日（土）
テーマ：共に生きる社会～貧困層の居住問題解決に向けて
場　所：ソウル市内
主　管：ソウル研究院、SH 公社、都市研究プラザ
主　催：ソウル特別市

■URP 先端都市特別研究員（若手）公募
募集要項（平成 27 年 8 月募集分）は 2015 年 7 月に公表を予定しています。
http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/about/recruit.html
■URP-Newsletter 次号は 2015 年 5 月に発行予定です。

大阪市立大学都市研究プラザ　ニューズレター　第 26 号
編集長（発行責任者）阿部昌樹
副編集長　水内俊雄　岡野浩　全泓奎
編集主幹　川井田祥子　野村侑香
http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/staff/

URP Osaka City University 大阪市立大学 | Urban Research Plaza 都市研究プラザ

「都市研究プラザ」は、都市再生へのチャレンジとして大阪市立大学が 2006 年 4 月に設立した全く新しいタイプの研究教育組織です。「プラザ」という名前が示すように、都市をテーマとする人々が出会い、集まる広場をめざしています。先端的都市研究拠点として、現場や海外での研究・まちづくり活動、さらに、世界第一線級の研究者や政策家と国際的なネットワークを構築しています。

http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138　tel.06-6605-2071
e-mail：office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp
所長　阿部昌樹　副所長　水内俊雄　岡野浩　梅田佳弘
ユニット長　1U 阿部昌樹　2U 嘉名光市　3U 水内俊雄　4U 岡野浩